

文化財の紹介

先人の軌跡をたどる

『豊後竹田の下石さん』

大分県竹田市には、滝廉太郎の作曲で有名な「荒城の月」のモデルとなった岡城跡があります。この城は文禄3年（1594）に兵庫県の三木城から移ってきた中川秀成が、

戦国時代の城郭を大規模に修築したもので、同時に城下町の整備も行なわれています。

この岡城から南西に延びる尾根上の、約1km離れた場所に「下石家屋敷跡」という名前の遺跡があります。

下石家は室町時代に美濃国守護職であった土岐氏の一族で、現在の土岐市下石町を領したことから下石姓を名乗ったと考えられています。戦国時代に土岐氏が没落した後、下石氏は織田信長、中川清秀（秀成の父）、小早川秀秋、石川康通に仕え、慶長15・16年（1610・1611）ころに四代目の頼豊が中川家に禄

二百石で召し抱えられたと伝わっています。

下石家屋敷跡は、岡城を防衛する要所にあり、殿様から家来20人を預けられて城を警護する役目を務めました。この屋敷跡が平成10年度に発掘調査され、安土桃山時代から江戸時代の建物跡などが見つかり、同時に多くの陶磁器が出土しました。この中には、土岐市やその周辺の窯で焼成した志野や織部が何点も含まれています。

初めてこの話を聞いたとき、桃山時代に遠く離れた大分県竹田の地で、現在の土岐市にゆかりがある下石氏が、土岐市の元屋敷窯で焼成した黒織部の茶わんでお茶を飲んでいたのかと想像して、楽しい気分になりました。

しかし、発掘調査報告書をよく読んでみると、下石家が

屋敷と役目を与えられたのは寛永15年（1638）のことです。志野や織部を使っていたのは前任者の池田家であったことがわかり、少しがっかりしました。

初代土岐市長の二宮安德氏の先祖は、お祖父さんの代まで竹田藩の典医を勤められたそうです。もしかしたら、かつて土岐市から出て行った下石さんと、将来、土岐市へやって来ることになる二宮さんが江戸時代に顔見知りだったかもしれないと思うと不思議な縁を感じます。



▲黒織部茶碗

(下石家屋敷跡出土：竹田市教育会蔵)

プラザイベントガイド

文化プラザ ☎55711

高嶋ちさ子 12人のヴァイオリニスト

～ミューズたちの祭典～

と き：10月30日(土)午後3時開演

ところ：サンホール

入場料：一般 3,500円 高校生以下 1,500円

※未就学児の入場・同伴はご遠慮ください。



9月5日(日)販売開始

詳細については、お気軽にお問い合わせください。

演奏曲目

- ヴィヴァルディ：
ヴァイオリン協奏曲「四季」より
第1番「春」第1楽章
- サラサーテ：
ツィゴイネルワイゼン
- サラサーテ：
カルメン幻想曲
- マスネ：
タイスの瞑想曲
- モンティ：
チャルダッシュ ほか

※曲目は変更になる場合があります。